

和魂洋才 世界のリーダーへ

武田薬品工業 ⑦

挑戦 する企業

ファンド傘下に

「外に出されるというより、我々が望んだ枠組みと考えてほしい」。武田薬品工業子会社で創薬支援サービスを手がけるアクセリード ドラッグ ディスカバリーパートナーズ(神奈川県藤沢市)社長の池浦義典は、独立についてこう語る。アクセリードは2017年7月、武田の創薬研

研究者の起業家精神喚起

究部門の一部事業を承継して発足。化合物ライブラリーの維持管理業務などを手がけてきた。18年11月に武田と投資会社ウイズ・パートナーズ(東京都港区)が設立する「創業維新投資事業有限

つき合いにくいという感で、やりがいにつながり」と主張。会社の発足以来、顧客意識の醸成に努めてきたとしており、「次の段階は、いかにして顧客にリピーターになって頂けるかが一番の課題」と気を引き締める。

望んで独立、IPOも視野

責任組合(創業維新ファンド)の傘下に入る。武田の同ファンドへの出資比率は30%程度になる見通し。

池浦によると、「武田の子会社という部分で、ちよつとアクセリードと

6-7年後に新規株式会社(IPO)をを目指す。従業員の中には武田グループの外に出ていくことで葛藤を抱く人もいると考えられるものの、池浦は「これまで以上に多くの社外の方々と仕事が

互いを高め合う

社員の起業家精神を喚起し、研究開発を活性化する狙いがある。

起業となると収入や安定性、社会的地位などが変わるため二の足を踏む人も多い。武田でEVPを推進するシニアダイレ

いた研究者が変わって成功するのを見れば、『こいつができるならば俺もできる』となる。武田に残った者と武田から出た者が互いに高め合うことで技術革新につながりうる。(敬称略)



アクセリードは武田以外からの受注の拡大を狙う(化合物管理の設備)

クターの久米健太郎は、この問題を解決するためにも成功事例が必要と考えている。「身近に